44. カリブ海の海賊

スペイン国王自ら指揮をして、インカの財宝を奪い、さらに金銀の鉱山を探し当て、採掘・精錬これらを運び出す一連の動き。さて金銀財宝を満載して運ぶスペインのガレオン船を狙う海賊船が現れるのも当然の帰結でしょうが、財宝探しに大きく出遅れたイギリスやフランスの商船がそのまま海賊に変身しており、それまでも商船が他の商船を襲い荷を奪う行為は度々起きており、ですから商船も武装しているのが普通でしたから、率のいい儲け仕事としての海賊稼業への変身です。ですからイギリスのエリザベス女王一世は隠密裏に海賊船を奨励し、私掠免状を与え、私掠船で得られた利益は、国庫、出資者、船長以下乗組員は所定の比率で山分け、国や出資者にとってこれほど儲かる商売無し，エリザベス女王一世がフランシス・ドレークに私掠免状を与えたのが最初ですが、その投資額に対して 6000％の利益を得たと言われておりますから国営の海賊稼業で大儲けをして国家財政は右肩上がり、其の資金で大艦隊を建造し、ナポレオン戦争でフランス・スペイン艦隊をトラファルガー沖海戦（1805 年）で撃破。その後スペインは斜陽、替わってイギリスが七つの海を支配する海洋国家に成長するのですから、一寸した発想の転換が大変な結果を生んだことになります。

お陰で公認海賊一号のドレークはサーの称号を授与され、イギリス海軍の創設に携わり、最期は海軍中将で引退しましたから最高の栄誉と地位を得た幸運者です。

同様にフランスにおいても宗教革命後、国内でカトリック教徒とプロテスタント教徒（蔑称としてユグノーと呼ばれていた）が対立し、激しい闘いが繰り広げられ、やがて追いつめられたユグノー教徒の一部がカリブへ逃れ、海賊に変身、これがユグノー海賊で其の暴れ方はイギリス海賊を上回っております。

さらにオランダも追随し知能的に船隊を操りスペイン船団を襲撃して大量の銀貨を本国へ運び、この頃各国は国庫の収入より海賊からの上納金の方が多かったのですから最高に利益を生む海賊稼業でしたから国営として奨励したのです。18 世紀は私掠船全盛となりカリブ海は 200 年余に渡って南米より持ち出す金銀を巡る争奪の海になりました。

私掠船の定義は、国の政府、例えばイギリスの場合海事法廷などが、交戦国の船、特に商船を攻撃しても良いという「私掠免許状」を公式に与えた。ただし、攻撃の対象は敵国の船舶に限ると厳しく規定をしておりました。

しかし、私掠船の概念ははるか昔からあり、宮廷、政府の有力者、時には国王の認可のもとに海上掠奪行為をおこなう船は存在し、これらの船には出資者がいたのです。

中世後期において、北海やバルト海ではイギリスの船はよくハンザ同盟の商船を襲い、エリザベス朝になると、前述のように積極的に庇護、奨励していたのです。

私掠船は正規の海軍ではないですから、正式の宣戦布告していないでスペイン船を襲ったとして、

スペイン政府から抗議がきても無関係とはねつけることができ、陰では督励して多くの冨を掠奪できたのですから、大いに潤い王朝、国力とも充実したのです。

私掠船に対し海賊船は、政府高官や王室の後ろ盾のない、つまり正式の免許状をもたない掠奪専門の船で、交戦国、自国の船の見さかいなく襲撃する掠奪船ですから、捕まれば犯罪者として刑をうけなければならず、即処刑だったようです。

この私掠船や海賊船として用いられていた船舶はパイレーツ・オブ・カリビアンに登場するような大型帆船ではなく、小型・高速のフリゲートで、せいぜい 20～50 トン位の大きさです。

海賊でも呼び名が異なりますが、「パイレーツ」は古代から現代までの海賊の総称で英語“PIRATE”。「ヴァイキング」は 8～10 世紀頃ヨーロッパを中心として活動した海賊。「バッカニア」はカリブ海賊の総称。「プライヴァティーア」は国王のお墨付き私掠免状授与されていた海賊。「コーセア（イスラムの戦士）」も同じく国王や貴族から免許状を授与されていた海賊と区別されます。

中南米から金銀財宝を長期間、掠奪・強奪の限りを尽くしたスペイン、其の財宝船の運送途上を襲った各国の私掠船や海賊､そのルートは違っても財宝が運び込まれたのはヨーロッパの国々ですから、其の資金を持って次なる狙いとしてアフリカやアジアに襲いかかり、植民地獲得に狂奔するわけで、中南米・アフリカ全土が植民地化され、アジアではタイと日本だけが辛うじて独立を保つことができたのです。但しタイが独立を保てたはイギリスとフランスの植民地が接して争うのを避けるため緩衝地帯としてタイを独立国にして置いたのです。従って欧米以外では日本だけが辛うじて独立を保ち得たのです。いつの世も‘弱肉強食’‘力こそが正義’が基本なのでしょう。

各国の海賊船は本国から出航したわけではなく、カリブ海の各地に根拠地を設け、更に逃避地、隠れ巣窟のようなものを各島々に設け、映画パイレーツ・オブ・カリビアンのような海賊稼業に精を出すのです｡財宝を満載したスペイン船を襲うばかりではなく､海賊船同志の闘いがありましたから各々が秘密の根拠地を複数設けていたようです。

その最大の基地はジャマイカのポートロイヤル、ハイチの北にあるトルチュ島、その他小アンチル諸島にそれぞれの根拠地がありましたが、現在でも石材で建造した嘗ての砦が朽ち果てたまま遺跡の様に残っておりますが、実際は放置されたままの状態です。

小アンチュールの島々は北から南へ一列に並ぶように存在しますが、北からアメリカ・イギリス・フランスの保護領になっており、夫々の国柄を反映したテーマパークのような街造りです。特に南端の南米よりの小アンチュールはオランダ領ですが島全体がハオステンボスみたいな街並みでしたから驚きました。

カリブ海の海賊は 1537 年ユグノー海賊の襲撃が最初で、それから 1778 年スペインは銀山を掘り尽くし、採算がとれなくなって放棄、従って定期的な財宝船団が廃止され、海賊稼業も衰退するわけで

す。1805 年 10 月ネルソン提督指揮のイギリス艦隊とフランス・スペイン連合艦隊が海戦、これが史上有名なトラファルガー沖海戦で、参加隻数では連合艦隊の方が多かったのですが、ネルソン提督の巧みな指揮に連合艦隊は壊滅的な惨敗をきし、これを契機にスペインの制海権はイギリスに移り世界七つの海を支配する大英帝国になり、カリブ海賊も完全に終焉を迎えることになります。

其の間約 250 年間にカリブ海で荒らし回った海賊の首領を列挙すると時代は異なりますが、アン・ボニー、キャラコ・ジャック、フランソワ・ロロネ、ヘンリー・モーガン、メアリ・リード、エドワド・ティーチ、サミュル・ベラミ、ウイリアム・ウォーカー、映画‘パイレーツ・オブ・カリビアン’のジョニー・デップが演ずる首領ジャック・スパロウは架空の人物ですが、映画とはいえ首領の風格としては一寸軽すぎます。

その部下としては1艘の海賊船に30人位が乗り組んでおり船長以下それぞれの役割分担が決まっており専門職に分かれますが、入れ替わりは激しく、それは戦闘で死亡するよりも、病気での死亡の方が多かったようで、其の原因は食事にあり、燻製肉（ブカン）と固いパン、野菜は全くなし、ラム酒のガブ呑み、腐敗した生水と悪条件が重なり栄養障害で驚くほど短命だったようです。

イスパニューラ（スペイン）の歴史は長いのですが、永らく栄えた王国ではなく、イベリア半島は紀元 8 世紀からイスラム教徒の侵略を受け、イスラム教徒とキリスト教徒の対立、闘いは 800 年も続いておりカスティリャのイサベル女王とアンゴラのフェルナンド王が、イスラム教徒の最期の拠点グラナダのアルハンブラ城に総攻撃をかけて、ムハマンド十一世を屈服させ、入場式を行ったのが、1492 年 1 月 2 日、そして国王の支援でコロンブスが探検航海に出発したのが僅か 3 ヶ月後の 4 月 17 日ですから、コロンブスの大陸、カリブ海の島々の発見、スペイン国王の領有宣言がその後どれほどの冨を国王にもたらしたか、世界一の富裕国家になり君臨するのですからコロンブスの貢献は大なのです。しかしコロンブスは四回の航海をしながら報われることなく、不遇のままこの世を去っておりますから運命は一寸したボタンの掛違いがその後を大きく狂わせていくのでしょう。

一方、イスラムに侵略された当時、イスラム教では魂を浄化させ「金」へと転換する神人合一の技が伝承され、これが練金術の秘儀がイスラム練金術を実用的要素と神秘的要素の融合となり、それの技法を学んだスペインの金銀の精錬と探鉱に繋がっていますから歴史の偶然は凄いものです。

そしてスペインの繁栄は続くのですが、やがて斜陽となり、平家物語そのままに盛者必衰、現在国の財政悪化でユーロ圏内で大問題になっているのが　PIIGS（ポルトガル・イタリア・アイルランド・ギリシャ・スペイン）国名の頭文字を並べて（又は Pigs）バカにした様な表現ですが、ギリシャの経済危機はユーロ圏全体の財政危機を招きかねません。その PIIGS の国々はいずれも嘗て歴史上大活躍し、豊かな国の代表だったのですが栄枯盛衰時の流れでしょうか。ＥＵ加盟国としてユーロ圏の問題としてギリシャ財政危機は大問題ですし、さらにギリシャ国債を大量に保有している国、フランス・ドイツは国内の金融危機が心配される程ですが、ギリシャ国内では暴動が頻発しています。負債の金額は日本円にして約 36 兆円位です。ユーロ危機は第二次大戦後最大の危機と捉えていますから相当深刻であり、ギリシャの後はポルトガルの危機が囁かれており、大航海時代、植民地獲得時代の栄光は

遠い遠い昔話になってしまいました。

更なる金融危機を招く怖れが大なのは　GDP 世界 1，2 位のアメリカ・日本ですが財政赤字を抱え苦しんでいる国でもあるのです。特に我が国は先進国中飛び抜けた最大の借金王国で 3 月末現在で 882 兆 9235 億円、国内総生産（GDP）比率で 189.3%、米国 84.8%、英国 68,7%、国民一人あたりの借金額 683 万円、2010 年度末 973 兆円に膨らむ見込み、改善の兆しは全くなし、5 月 14 日国際通貨基金（IMF）が世界各国の財政見通しを発表、日本の債務残高の対国内総生産（GDP）比率は、2015 年世界で超最悪の 250%に達すると予測、危機の陥っているギリシャの債務残高見通しは 133%。従って第二のギリシャに陥る怖れあり、外国の方が危機感を抱いているのに、国政としては増税無し、バラマキは辞めません、危機感も全く感じていない不思議な政官民ですが、其の内「JAM」とか言われて国際金融界から締め出しされる危険性は多分にあり、金融危機に陥った時、国際的に支援できる額をはるかに超越する額になります。

外国人アナリストが指摘する危険性は、我が国の借金財政が確実に右肩上がりで膨らんでいく事に注視しています。これは過去借金財政に対して全く対策を執ることがなかった査証であり、対策がないまま近い将来破滅することを見据えています。

現在 NHK の大河ドラマばかりではなく、世は‘坂本龍馬’の大ブーム、何故でしょうか。世相は不況、失業、デフレ、世界最大の借金国家、明るい材料が全くない閉塞感漂う社会にあって、江戸末期、快刀乱麻の大活躍で日本の夜明けを導いた坂本龍馬の様な人材の出現を待ち望んでいる国民の悲痛な願いがこの現象を生んでいるのです。龍馬の末裔だの外戚だのと称する政治家がおりますが、本物のような大活躍が期待できる人材の出現こそが待ち望まれているのです。

◎追録：現代海賊事情を申し上げます。

最近の十年間にあった世界中の海賊事件は 1 年間平均 445 件（IMF 世界海事機構調べ）。ソマリア沖、マラッカ海峡、その他アフリカ沖、東南アジアは多発海域　特にインドネシア近海は危険海域です。

ソマリア沖の海賊は船を乗っ取り、乗組員を人質にして身代金を要求、ですから解決までは時間がかかります。また仲介専門の Negotiator（交渉人）も存在します。

マラッカ海峡の海賊は海峡航行中の船舶を襲い乗組員の金品や船用金を奪って短時間で姿を消します。アフリカ沖も仮泊中の船舶を襲い乗組員の金品と食料品や金目のモノ等を奪って逃走します。これらの海賊は抵抗しなければ命を奪うよな事はありませんが、航行中の船舶を狙う武装集団は闇組織の一部で、積み荷を売り捌く、船舶を全く別の（国籍、船籍、船名、保険他）船舶に仕立てあげて転売するという大がかりな組織が存在し、これらの組織は積み荷や船舶が目的ですから、乗組員は皆殺しか、海に棄てるか、ボートに乗せて放置するか、昔も今も海賊のやる事は同じです。

●日本の海運会社が関連する船舶が武装集団に襲われた例を挙げます。

①　テンユー号（Tenyu）4240 トン、パナマ籍貨物船、1998 年 9 月 27 日　アルミインゴット約 3000

トンを積んでスマトラ島から韓国向け出航、其の直後武装集団に襲われ行方不明、2ヶ月後中国南東部の浙江省張家港で、船名「サンエイⅠ」に変更され停泊しているのが発見されましたが、中国南部には大きな闇組織があるらしく船舶は改造、船名、船籍を替えて転売、発見時インドネシア人が乗り組んでおりましたが、襲撃事件とは無関係の人達だったので釈放、積み荷は韓国人ブローカーが買占めて転売、事件当時の乗組員（韓国人）は未だ行方不明です。

② アロンドラ・レインボー号（Alondre　Rainbow）7762 トン　パナマ籍、貨物船、1999 年 10 月 22 日　アルミインゴット 7000 トンを積んでスマトラ島を出航、日本向け航行中、武装集団に襲撃され、乗組員は海賊の司令船に移され船倉に監禁、船は集団の一部が操船して逃走、その後乗組員は救命筏（ゴム製）に移乗させ、11 日間海上を漂流してタイのプーケット沖で漁船に発見され保護された。船、積み荷は転売された模様。

③ グローバル・マース号（Global　Mars）3729 トン、パナマ籍、貨物船、2000 年 2 月 24 日にパームオイル 6000 トンを積んでマレーシアを出航、インド向け航行中、武装集団の襲撃を受け、乗組員を全員救命筏に移乗させて逃走、筏はタイのスリン島に漂着、保護した。

④ 韋駄天　日本籍タグボート（近藤海運）マラッカ海峡航行中（2005 年 4 月 7 日）武装集団に襲われ、船長・機関長が日本人、フィリッピン人の部員計 3 名が身代金目的で拉致され、本社に 25 万ドルの要求があった。乗組員は漂流中タイ南部サトウン沖でタイ警察に発見され保護された。

⑤ 2007 年 10 月　日本の海運会社が運航するパナマ船籍ケミカルタンカー、ゴールデン・ノリ号が武装集団に乗っ取られ、身代金 100 万 US ドルを支払い 12 月 12 日釈放。

⑥ 2008 年 7 月 20 日　日本の海運会社が運航するパナマ船籍貨物船ステラ・マリス号の 21 人が人質となり、身代金 200 万ドルで 9 月 26 日全員解放。

⑦ 2008 年 8 月 21 日　興洋海運所属（日本）ケミカルタンカー「アイリーン」7373 トン　化学薬品を積んでフランスからインド向け航行中、ソマリア沖で武装集団に襲撃されフィリッピン人 19 名が人質となる。身代金 150 万 US ドルを支払い解放された。

⑧ 2008 年 9 月 15 日　香港船籍　運航は日本の会社　ケミカルタンカー、ストールド・ヴァロール号が襲撃され乗組員全員 21 名が人質、身代金 250 万 US ドルを支払い釈放。

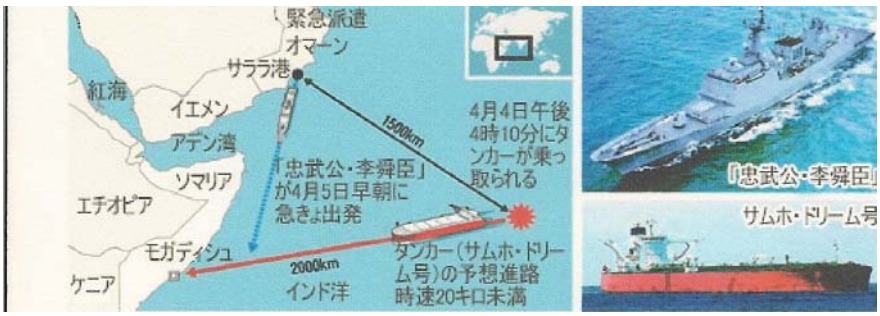
●海賊事件として世界を驚かせた事件

◎ 2008 年 9 月 30 日　ウクライナの海運会社が所有する RORO 船「ファイナ」　船籍ベリーズ　がソマリア沖で武装集団に乗っ取られ、この積み荷がロシア製 T72 戦車 33 両、弾薬多数なので、この兵器がテロ組織に渡っては大変と米海軍が出動しましたが、身代金相当多額を支払いで（公表なし）解放、襲撃したのはアルカイダ系の武装組織のようです。

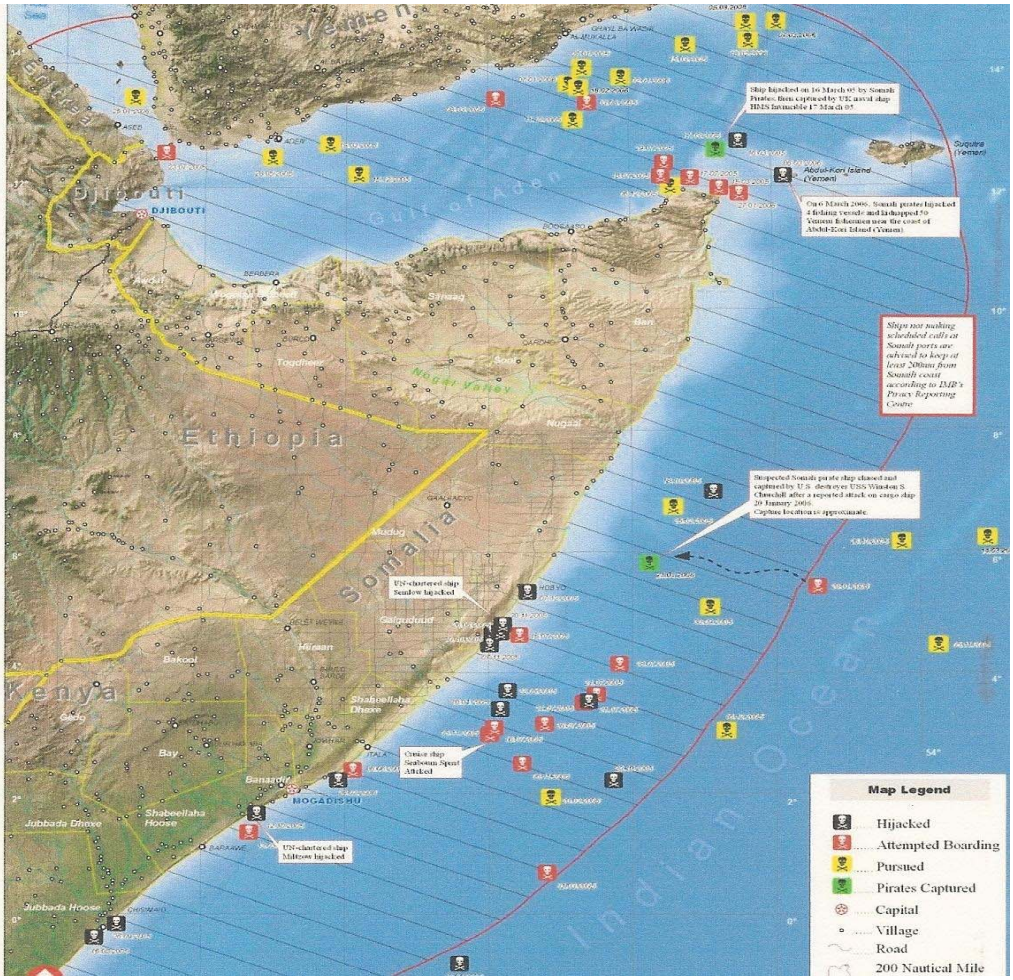
◎ 2010 年 4 月 24 日　韓国　船主サムホ（三湖）海運所属　船籍マーシャル群島、マンモス原油タンカー（超大型）、サムホ・ドリーム号　乗組員韓国人 5 名、フィリッピン人 19 名、イラクで原油 200 万バレル（約 30 万トン）を積載して米国ルイジアナ向け航行中、インド洋上（08°

―21′N 65°―00′E）ペルシャ湾ホルムズ海峡から喜望峰廻りのコース上で武装集団に乗っ取られ身代金　2000 万 US ドルが要求された。直ちに韓国海軍清海部隊（ソマリア海賊対策派遣部隊）の大型駆逐艦「忠武公李舜臣」4500 トン級が派遣され接近したが、乗っ取り犯側は近づくと船を爆破すると船舶電話で通告、船主側に雇用された交渉人（英国人）と海賊側が雇った交渉人とが接触中（2010 年 6 月現在）未解決。

世界ではこの様な事件が連日起きているわけですが、国内での報道は殆どありません。これら関連のニュースには関心を持たないから報道しないのか、日本人が関係しなければニュースとしての価値はないのか、どうも我が国の報道には違和感があります。



◎　韓国、超大型タンカー、サムホ・ドリーム号がインド洋中央で乗っ取られる（4 月 4 日）未解決（2010 年 6 月 6 日現在）



◎　ソマリア沖の海賊襲撃事件の発生マップ、連日襲撃事件が起きていますが報道は全くありません。上部のアデン湾はスエズ運河への航路ですから必ず航過しなければなりません。狭くなっているのがバベルマンデブ海峡で潮が速く難所です。その上が紅海、両岸は沙漠。